

「ナシ福島7号」は短果枝を利用すると 果形が揃いやすい傾向がある

福島県農業総合センター 果樹研究所 栽培科

1 部門名

果樹-ナシ-育種・選抜

2 担当者名

吉田小夏、佐久間宣昭、佐藤寛人

3 要旨

「ナシ福島7号」は、ナシ黒星病に対して耐病性があり、主力品種「幸水」の前に収穫できる食味良好な有望系統であるが、果形が揃にくいことが問題となっている。そこで、短果枝、長果枝別の果形について調査したところ、短果枝を利用すると果形が揃いやすい傾向があり、完全種子の割合も増加することが確認できた。

(1) JA 出荷基準に基づき短果枝と長果枝の果実を評価した結果、短果枝のほうが正品または搬入限界と判定された果実の割合が高かった(表1)。

(2) 短果枝の果実は長果枝の果実に比べて、完全種子の割合が高かった(表1)。

表1 「ナシ福島7号」の短果枝・長果枝別の果形調査結果(2024年)

着果枝	調査果数	種子		心室数 (個)	判定 ² (%)		
		種子数(個)	完全種子(%)		○	△	×
短果枝	44	11.3	63.3	5.6	22.7	36.4	40.9
長果枝	49	11.4	50.3	5.7	12.2	30.6	57.1
t検定	—	n.s.	* *	n.s.	—	—	—

注) * *は1%水準で有意差あり、n.s.は有意差なしを示す。

²: 幸水の出荷基準をもとに、○: 正品、△: 搬入限界(浅い溝2本までかつ片肉6:4まで)、×: 規格外(浅い溝3本以上または中以上の溝1本以上、片肉7:3以上)の3段階にわけた。(図1、2)

4 成果を得た課題名

(1) 研究期間 令和3~7年度

(2) 研究課題名 個性豊かな県オリジナル果樹品種の育成、新品種・新技術等開発促進事業〔JAグループ福島からの寄附金〕

5 主な参考文献・資料 なし



図1 判定○の果実(短果枝)

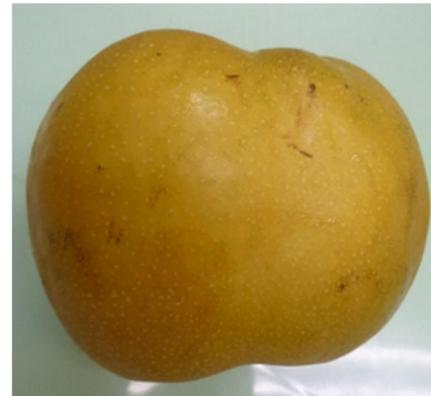


図2 判定×の果実(長果枝)